

多高通信

第138号 平成29年1月26日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

世界津波の日 高校生サミット

国連防災世界会議で「仙台防災枠組」が採択され、また、国連において11月5日を世界津波の日とすることが制定されたのを受け、「世界津波の日」の啓発イベントとして、青年による国際会議「世界津波の日 高校生サミット」が11月23日から26日に開催されました。これには、本校生徒をはじめ、世界から30カ国の高校生約360人が集まりました。



グループディスカッションの様子



前半の23、24日は「宮城スタディツアー」として、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県沿岸部を世界の高校生が訪問し、地元の高中生と交流を図ることを目的とした取り組みが行われました。23日、本校には中国福建省の高校生30名が来校し、津波波高標を示す

「まち歩き」と交流会が行われました。また、24日には、石巻を会場に「宮城スタディツアー」に参加した15カ国の生徒と県内の生徒が集い、交流会が開かれました。グループに分かれて行った被災地視察の報告やグループワーク、グループディスカッションが行われ、それぞれの体験や知見に基づいた意見が交換されました。後半の25、26日は高知県黒潮町で開催され、本校からは代表3名が参加しました。主会場となった黒潮町は、南海トラフ地震による被害想定において、津波高34・4メートルという国内一の想定がさ

れています。26日はメインである分科会が行われ、「高校生に何が出来るか」という視点で、それぞれのテーマに基づいたアクションプランを作成しました。本校は、3・11の経験を踏まえ「都市型津波における防災・減災」津波波高標示プレート設置活動を通して」というプレゼンテーションを行い、多くの共感をいただきました。また、ワールドワークとして、高台避難訓練、津波避難タワー見学、「安政津波の碑」見学などを行い、黒潮町の防災に対する実際の取り組みを学びました。

記念植樹のあと、最後に宣言文検討会があり、自然災害から一人でも多くの命を守るための努力を決意した「The Kuroshio Declaration(黒潮宣言)」が満場一致で採択されました。

■工藤綺乃 (2年6組 中野中出身)
今回参加して思ったことは、津波をもう少し具体的に世界に発信した方がよいということです。同じグループの中で、津波について聞いたところ、私たちの認識と大きく異なっているところがありました。その差を埋め、津波の怖さを共通認識していくことが大切だと思います。今回多くの国や地域の人と関わることが出来て良かったです。多くの人と関わっていくことが防災の第一歩となるはずだと思います。多くの人のつながりを、学校でまた広げ、どんなその輪を大きくし、一つの大きな輪をつくっていき



たいです。

第12回「私のしごと」作文コンクール 専門学校新聞社賞・陸前高田市市長賞・優秀学校賞 受賞!



優秀学校賞 受賞!

11月23日、東京の私学会館アルカディア市ヶ谷で、NPO法人・仕事への架け橋が主催する『全国高校生・高等専修学校生 第12回「私のしごと」作文コンクール』の表彰式が行われ、本校2年生の櫻井千聡さんが専門学校新聞社賞を、平塚亜美さんが陸前

高田市市長賞を受賞しました。また、宮城県多賀城高等学校として優秀学校賞も受賞しました。

いずれも「あれから5年、私は3・11を忘れない」というテーマで、震災復興と「しごと」を結びつけた作文となっています。全文はNPO法人・仕事への架け橋のホームページから読むことができます。

■平塚亜美(2年7組 鳴瀬未来中出身)
私が震災で経験したことや学んだことを書いて多くの人に読んでほしい、そこでこのような大きな賞を頂くことができても嬉しいです。また、表彰式でたくさんの方との出会いもありました。その一つ一つを大切にしていきたいです。

社会と災害 特別授業

海の名称

人々の歴史、生活、社会との関わり

12月9日、文部科学省初等中等教育局主任教科書調査官の高橋洋子先生を講師としてお迎えし、「海の名称」人々の歴史、社会、生活との関わり」の授業を行いました。高橋先生は日本船舶海洋工学会にも所属され、地理教育にとどまらず海洋教育、環境教育などにも精通されています。

授業はアクティブラーニング型で進められ、世界に海はいくつあるか、太平洋に名前をつけるとしたら、海に2つ以上の呼び名があったときのメリット・デメリットなどの質問が生徒に投げかけられました。グループではそれらについて考えや答えを発表し、考察を深めていきました。

先生からは、大洋と海の境界の話や、EIO(国際水路機関)の話など興味深い話が数多くありました。「海」をキーワードとして歴史や文化、生活など多くのことを考え、学ぶことができる内容でした。



■赤堀恵夏(1年7組 仙台白百合学園中出身)
今回の特別授業の中で一番印象に残ったことは、海の名称の由来についてです。私は海の名称の由来は、周辺の国や人物の名前だけが由来だと思っていたのですが、実際には周辺の地形やギリシャ神話の神の名前など、さまざまな由来があったり、同じ海でも国によって呼び名が違ったりするようで、海の名称をめぐる各国間の問題について興味を持ちました。

神戸大附属中等教育学校 合同巡検・生徒会交流

大川小学校の見学



12月15日、本校災害科学科と神戸大学附属中等教育学校の合同巡検を石巻・女川方面で行いました。釣石神社では、ARを使用し、「石巻津波伝承AR」というアプリを用いて、被災直後の様子や実際にこの地を襲った津波がどのようなものだったのか、そして浸水深について考察しました。

石巻市立大川小学校では、東北大学災害科学国際研究所助教・佐藤翔輔先生、NPO法人 JSDS NOW JAPAN 専務理事・佐藤敏郎先生の現地案内・説明のもと、大川小学校の被災の現実を学びました。実際に校舎を前にして、また裏山を登り、先生方に直接質問しながら防災・減災の根幹を学びました。

女川町では、町の復興の様子を本校卒業生である東北学院大学・小畑綾香さんの案内で見学し、南三陸せつけん工房・厨勝義さん、NPO法人アスヘノキボウ代表理事・小松洋介さんから説明を受けました。災害の現実と厳しさに言葉が続かない生徒もいましたが、災害の厳しさとそこから力強く立ち上がろうとする人々の姿勢に、「災害にまた見舞われてしまう可能性はあるが、そのあとにどう立ち上がるか、自分たちだけで難しいなら積極的に外から力を借りるべき」など、それぞれが復興の第一人者としてどうあるべきかを改めて考えていました。

学校に戻り、生徒会の交流会が行われました。新生徒会執行部に切り替わってからの初めての生徒間交流会となりました。各校の防災活動に対する取り組みについて発表を行い、神戸大附属中等教育学校からは「防災教育に取り組みむ上での課題点」や、仙台交流、復興庁訪問などの活動について説明がありました。



交流会の様子

3公立大連携シンポジウム

in宮城 軽音楽部が発表しました!

12月17日、宮城大学で、兵庫県立大学・奈良県立大学・宮城大学の3つの公立大学による、大学生の主体的な学びを実現するための「新たな教育モデル」の構築に向けたシンポジウムが行われました。

各大学の学生からそれぞれ教育プログラムの事例発表が行われ、宮城大学からは、4年生の高橋佳帆里さんが、本校軽音楽部が8月6日に七ヶ浜の菅蒲田浜海水浴場で開催したイベント「Tea's、浜ロック



ク2016」を題材に、「主体的な学びと地域との連携」について発表しました。軽音楽部3年の赤間千永未さん、飯田莉乃さんの2名が部を代表して発表に参加し、自分たちで企画・運営を行うことで学んだことや感じたことを高橋さんとともに発表しました。

■赤間千永未(3年4組 七ヶ浜出身)

前半のパワーポイントでの発表では、「Tea's、浜ロック」について、家庭部・軽音楽部の活動を放送部が作った映像を通して知ってもらうことができました。また、後半のパネルディスカッションでは、大学の先生方が今の高校生が大学にどのような学びを求めているのかを質問してください、大学と高校生が持つ大学へのイメージの違いや、大学の先生方が学生に自主性や行動力を強く求めているということを知る良い機会になりました。

このシンポジウムを通して、大学生は、普段の講義を受講しているだけでは学外での活動の参加や主体的な学びの機会を得ることは難しいこと、また、先生方も座学以外の活動をとても大切な学びの機会と考え、そうした場面を増やそうとしていることを知り、進学後に自分の考えを発信し行動に移せるようになるためにはどうしたらよいかを考えるようになっていきました。新年度からの大学生活でも、活動の幅を広げ学外での学びの機会を大切にしていきたいと思えます。



後日、西垣克学長から感謝状を頂きました。

2学年 学習合宿

12月27日から2泊3日、富谷市の東北自治総合研修センターで2学年の学習合宿が行われ、48名の生徒が参加しました。2学年では「修学旅行後に受験生に切り替わろう」と呼びかけており、自分の意識を高めるため、どこまで学習に挑戦できるか試すためなど、それぞれの目標を持って取り組んでいました。

■生徒の感想

・合宿中に何回か心が折れそうになりましたが、最後までやり遂げることができてよかったです。ペンのインクが減っていくのを見て長時間学習をしていることが実感でき、とてもうれしかったです。頑張りや形に現れることとやる気が出るということが分かったので、中途半端な努力ではなく、しっかりとやる気を出して受験を乗り切りたいと思います。(2年女子)



・今回の学習合宿を受験勉強のスタートにできるように、明日からも継続して毎日しっかり学習に取り組みようと思います。自分の意識は変わったので、周りの友人たちにも受験生の意識を広めたいです。(2年男子)

ファシリテーター養成講習

和田教授の講義を聞く生徒



1月5日、東北学院大学の和田教授と東北学院大学の学生10名に本校していただき、生徒会執行部16名を対象にファシリテーター養成講習を行いました。

ワークショップの様子



2回に分けて行われる講習の第1回目で、和田教授から、ファシリテーションとは何か、重要なことは何かなどの講義をしていただいた後、大学生をファシリテーターとしてワークショップを行いました。生徒たちは、3月に行われるメモリアル行事のワークショップのファシリテーターとして活躍できるようにしっかりと話を聞き、積極的に話し合いを行っていました。

全国防災ジュニアリーダー

育成合宿

1月13日から15日まで、兵庫県立舞子高校・国立淡路青少年交流の家で行われた「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に生徒会執行部、災害科学科の生徒4人が参加してきました。



熊本県教育委員・木之内均氏による講演「熊本地震の経験から思うこと」

初日は合宿のプログラムに組み込まれている、舞子高校「震災メモリアル行事」に参加しました。太古知恵美校長先生の挨拶などの後、分科会が行われ、舞子高校の1、2年生全員が参加してのワークショップを行いました。その後、淡路青少年交流の家に戻り、諏訪清二先生による講義「中学生高校生、災害と向き合う子どもたち」を受講しました。「挨拶が防災の始まり」という話題から、コミュニケーションの大切さ、またコミュニティーの結び付きの大切さについて学びました。

2日目は、阪神淡路大震災の語り継ぎについて、南海トラフ地震についての2本の講義や本校の防災活動の発表のあと、防災活動アクションプランの作成を行いました。「アクションプランは1年で実現可能な計画であること」との指導を受け、学校ごとにアクションプランを作成しました。多くの生徒が「学校全体を巻き込んだ防災活動を展開したい!」と考えていた事が印象的でした。

アクションプラン発表会。他校の生徒から質問を受けました。



3日目は、人と防災未来センターで、センター長の河田恵昭さんより特別講義「地球温暖化と災害の被害の変化」がありました。「災害は家屋倒壊だけが被害を生み出すわけではない。停電による地下鉄やエレベーターの停止、また地球温暖化が生み出す新たな災害も視野に入れる必要がある」と教えて頂きました。

今回のジュニアリーダー育成合宿では、これまで行ってきた活動について自らの実感を伴った発表活動を行うことができました。そして全国の中高校生と交流する機会にも恵まれ、参加した生徒は「防災」について新たな視点を手に入れると共に、新しい出会いにも感激した様子でした。

JAXA連携授業 今年度3回目です!

1月19日、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の、有人宇宙技術部門宇宙飛行士運用技術ユニット宇宙飛行士健康管理グループの医長・嶋田和人先生をお招きし、「国際宇宙ステーションと栄養」をテーマに特別授業を行いました。嶋田先生はオハイオ州のライト州立大学でエアロスペースメディスンの専門医認定を受け、その後NASAに移り、20年間スペースシャトルや国際宇宙ステーション宇宙飛行士の健康管理を中心に航空宇宙医学に従事していらつやっています。宇宙飛行士の選抜、定期検診、訓練中および飛行前・中・後の健康管理のほか、宇宙飛行に伴う身体変化の対策法の研究等を行っている、日本でも希有なお仕事をされている方です。



授業では、国際宇宙ステーションでの生活の様子や長期滞在における課題などについて、宇宙食と健康という観点からお話をいただきました。宇宙食の栄養基準はWHO準拠になっていることやオートファジーの考え方、宇宙食の美味しさや食欲の関係など、いろいろな話題を分りやすくお話ししていただきました。



宇宙食の実物の試食もしました。